



「認知症にやさしいまちづくり」と社会的処方

社会福祉法人心の会「まちの診療所つるがおか」院長の千場純さんにお話を伺いました。

【とても大切“認知症にやさしいまちづくり”】

誰しものが口を揃えて言います。「認知症にはなりたくない」…。

「“がん”よりもなりたくない」という人もいます。なぜでしょう？

がんのように「命に係わるから」と思う人はあまりいないでしょう。おそらく(認知症になった人を見て)「ああはなりたくない」と思うのでしょうかね。

でも皆さん～残念!! 85歳以上になると約半数が“なりたくなってもなってしまう認知症”です。“なったら困る”と願っていても、そうなってしまう確率がとても高いのですから(ならないように努力するのはもちろんですが)、“なっても困らないようにしておいた方が良く”のではないのでしょうか？

そこで求められるのが認知症になっても困らずに暮らしてゆける、つまり“認知症にやさしいまちづくり”です。

【「社会的処方」ってなに】

ここで今回のキーワードの「社会的処方」～認知症に限らず、うつや引きこもり、その結果としての「社会的孤立」は、様々な要因で生活習慣病などの諸疾患の発症のきっかけとなり、治療も妨げます。従来の医療の枠組みでは対処が難しいこの問題に対して、必要とされるのが医師(もしくは医療機関)の思いやりと気付き、そしてそれを解決するための地域とのつながりづくりであり、それを配慮(おせっかい)する取り組み～それを「社会的処方」と称します。

2021年9月29日放映の「クローズアップ現代」では「孤立という病気を治す社会的処方」が特集され、そこで紹介されたのが(私の職場である)「まちの診療所つるがおか」での“認知症を正しく理解し、その当事者やご家族が困らずに暮らしてゆくための社会的処方の取り組み”でした。

【「社会的処方」も受けられるような横須賀暮らしを目指して】

横須賀では既に多くの「認知症カフェ」があり、その連絡会(21箇所)も組織されています。また、「神奈川認知症カフェ学会」も発会しました。さらには多くの「認知症サポーター」(養成講座修了者 29,055名)や「認知症サポート医」(27名)も存在します。

まずは一度お近くの「認知症カフェ」を訪ね、認知症とはいかなるものなのか？を学んでみませんか。そして「なりたくない認知症になった時のあなた」を支えるため、“かかりつけ診療所からはクスリだけでなく、「社会的処方」も受けられるような横須賀暮らし”をみんなで目指しませんか！

問い合わせ先:福祉総務課 地域力推進係 (046-822-9804)